

# 展示資料解説「歴史資料にみる広島アジア大会 1994」

新 原 淳 弘

**【要旨】** 広島県立文書館では、令和7年3月25日から収蔵文書展「歴史資料にみる広島アジア大会1994」を開催した。本稿は、展示および文書館講演会（展示解説会）の内容を再構成するものである。1章で、展示の目的・大会招致経緯・当時の社会変容を取り上げる。以下、2章では西風新都と広島空港、3章では広島アジア大会の歴史資料、4章では広島アジア大会を取り上げる。5章では広島アジア大会・後史として、大会の「遺産（レガシー）」や記憶について言及する。

はじめに

- 1 広島アジア大会前史
    - 1-1 展示の目的・背景
    - 1-2 展示の視点（キーワード）
    - 1-3 アジア大会の招致と構想
    - 1-4 変容する広島県
  - 2 西風新都と広島空港
    - 2-1 西風新都（広島西部丘陵都市）
    - 2-2 広島空港の開港
  - 3 広島アジア大会の歴史資料
    - 3-1 県立文書館が保存している行政文書
    - 3-2 広島アジア大会関係の歴史資料
  - 4 広島アジア大会
    - 4-1 競技開催地
    - 4-2 選手村
    - 4-3 開会式・閉会式
    - 4-4 ライフル射撃
    - 4-5 競技の記録
    - 4-6 芸術展示
    - 4-7 市民参加
  - 5 広島アジア大会・後史
    - 5-1 広島アジア大会の「遺産（レガシー）」
    - 5-2 街中にある広島アジア大会の記憶
- おわりに

## はじめに

広島県立文書館では、令和7年(2025)3月25日(火)～6月14日(土)まで、収蔵文書展「歴史資料にみる広島アジア大会1994」を開催した。

この展示は、平成6年(1994)10月に開催された「第12回アジア競技大会広島1994」について、歴史資料を通じて振り返ることを目的に開催した。また、令和7年6月7日(土)には、文書館講演会(展示解説会)を開催した。

本稿では、展示および講演会の内容を展示資料解説として再構成する。まずは、展示概要を記しておく。

### (1) 展示概要

- ・開催日時：令和7年(2025)3月25日(火)～6月14日(土)(67日間)
- ・展示点数：158点
- ・観覧者数：136名(展示室配備の図録持ち帰り数)
- ・アンケート回収数：41枚

### (2) 展示構成

#### はじめに

#### 1 広島アジア大会前史

1-1 広島アジア大会の招致と構想 1-2 変容する広島県

#### 2 西風新都と広島空港

2-1 西風新都(広島西部丘陵都市) 2-2 広島空港の開港

#### 3 広島アジア大会の歴史資料

3-1 広島アジア大会関連の歴史資料 3-2 開幕前セレモニー

3-3 広島県庁内装飾 3-4 聖火リレー

#### 4 広島アジア大会

4-1 競技開催地 4-2 選手村 4-3 開会式・閉会式

4-4 ライフル射撃 4-5 マラソン 4-6 芸術展示・市民参加

### (3) 関連事業

- ・図録・チラシの刊行(当館ホームページに掲載)
- ・文書館講演会(展示解説会)6月7日(土) 10:00～12:00  
文書館研修・会議室(参加者14名)

※第20回中国・四国地区アーカイブズウィークの一環

#### (4) 広報活動

- ・当館ホームページへの情報掲出（3月25日）
- ・職員ポータル（3月25日）・中国新聞「情報交差点」（5月2日）・「まなびナビひろしま」への情報掲出（4月28日）
- ・広島県公式SNSへの情報掲出（5月10日）（88いいね・シェア9件／11月末時点）
- ・毎日新聞：5月30日付「ひろしまあのととき 【1994年】広島アジア大会」に展示内容が紹介された。



【写真1】収蔵文書展展示風景



【写真2】収蔵文書展広報用チラシ

アンケートの結果をみると、「なつかしい」「あの時の記憶がよみがえった」という記述が多くみられ、一定の成果を得ることができたと思われる。

以下、文書館講演会（展示解説会）での講演内容を再構成し紹介する。なお、資料の写真が図録に掲載されている場合、〈図録写真 p〇〇〉と表示する。

## 1 広島アジア大会前史

### 1-1 展示の目的・背景

今回の収蔵文書展を開催するにあたっては、令和5年度までに2回の取り組みがあった。

- ・「30年前の広島県－アジア大会前史－」（『広島県立文書館だより』第47号）<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 広島県立文書館だより

URL：[https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki\\_file/monjokan/dayori/dayori47.pdf](https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki_file/monjokan/dayori/dayori47.pdf)

・令和5年度第2回収蔵文書の紹介展「30年前の広島県-アジア大会前史-」<sup>2</sup>  
これらの成果をもとに、広島アジア大会をテーマとした収蔵文書展を企画した。展示を開催するにあたり、展示趣旨を以下のとおりとした。

平成6年（1994）10月2日から16日にかけて「第12回アジア競技大会広島1994」が広島市を中心とする県内各地で開催されました。

大会の理念を、「世界平和への願いをこめて友好の場にアジアの心を結び、力強く21世紀を拓く若人たちのスポーツの祭典」とし、大会スローガン「Asian Harmony わかちあう感動、結びあう友情。」のもと、42の国と地域の選手が広島に集いました。大会では、34競技（337種目）と芸術展示が行われ、スポーツや芸術活動を通じて交流を深めました。

このころの広島県は、空港・港湾・道路など大規模な開発やインフラの整備により景観が変容しました。

それから月日が流れ、令和6年（2024）に、30年を迎えることになりました。この展示では、歴史資料を通じて、広島アジア大会を振り返りたいと思います<sup>3</sup>。

今回の展示を実施するにあたって、重要な点の1つとなるのが、「広島アジア大会」は歴史なのか、ということである。30年前の出来事は、同時代であり、歴史としてはイメージしにくいところである。たとえば、博物館の展示における現代史・生活史の一環として、スーパーファミコンやWindows95のパッケージ（箱）を展示するケースもある。また、高等学校地歴科『歴史総合』の教科書には、「時代の転換点に立って 1990年代以降の国民生活」の項目がある<sup>4</sup>。その点をふまえると、「広島アジア大会」が「歴史」として位置づく時期になってきたと言えるだろう。

文書館の世界にとっても「30年」という時間の経過は意味があることであ

---

<sup>2</sup> 収蔵文書の紹介展図録

URL : [https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki\\_file/monjokan/zuroku/r5zuroku-30nenasia.pdf](https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki_file/monjokan/zuroku/r5zuroku-30nenasia.pdf)

<sup>3</sup> 展示図録『広島県立文書館収蔵文書展 歴史資料にみる広島アジア大会』広島県立文書館、令和7年、p1

(URL : [https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki\\_file/monjokan/zuroku/r6zuroku.pdf](https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki_file/monjokan/zuroku/r6zuroku.pdf))

<sup>4</sup> 『高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来』第一学習社、令和4年、p192~p193。

る。官公庁で作成される行政文書については、保存年限が設定され、その最長が30年である。保存年限を満了すると、文書館による評価選別（廃棄予定文書審査）の対象となる。選別の結果、行政文書が文書館に移管されると、現用文書から「歴史資料」へと位置づけが変化する。また、利用制限審査においても、完結後30年を経過したときには「時の経過」の考慮することになる（国際的な慣行である「30年ルール」）。

このことは、広島県にかかわる歴史資料（行政文書・古文書（寄贈寄託文書）・行政資料・公表資料・広報写真など）を収集・整理・保存・公開する施設である当館においても同様であり、行政文書の完結後30年という時間を経過することが、重要な意味をもってくる。

広島アジア大会に関する行政文書については、完結後30年を経過する令和6年（2024）から令和7年（2025）にかけて保存年限を満了することになる<sup>5</sup>。つまり、大会関連の行政文書が評価選別（廃棄予定文書審査）の対象となり、選別された文書が県立文書館に移管される時期になる。また、県立文書館では、移管された文書の中から、完結後30年経過をめぐり、「再選別」の検討を行っている。広島アジア大会については、関連する文書が全て移管されたと判断したので、令和6年11月に、大会に関連する行政文書（69冊）について再選別の検討を行い、国際的なスポーツ大会の文書であるため保存することを決定した（S01-2024-1~69）。

古文書（寄贈・寄託文書）に関しては、「植木唯男氏収集資料」（202509）を当館の寄贈資料として収集するに至った。経緯については、後に言及する。

以上のような背景があるので、「広島県の歴史」の1ページとして、「広島アジア大会」を位置づけることを試みたのが今回の展示である。

## 1-2 展示の視点（キーワード）

展示するにあたっては、4つの視点（キーワード）を設けた。視覚的に表現し、広島アジア大会との関連性を有している写真4枚を図録表紙写真として選定した（図録写真 p1（表紙））。

<sup>5</sup> 県庁地下書庫の保存されている長期保存文書（P文書）のうち一部の文書について、令和5年に保存年限見直しが行われ、それを契機にしてアジア大会に関わる行政文書（7冊）が県立文書館に移管された。

- ①大規模な開発 西風新都（西部丘陵都市開発）・広島空港・広島港（ポートルネッサンス21）・高速道路や道路の整備・インフラの整備
- ②社会の変容 「日本の縮図」といわれる広島県・都市課題の表出（「タワーマンション」の出現）・中山間地域問題・離島問題・高齢化社会
- ③国際社会と日本 世界情勢（国際史）と日本（近現代史）の交錯（「Asian Harmony」）・「国際平和文化都市」（広島市）・戦後50年・カンボジア内戦と国際貢献・中国残留孤児問題
- ④広島アジア大会 日本で2回目、地方都市での開催・アジア大会史上最大の参加者数・競技数・旧ソ連中央アジア5カ国とカンボジアの参加・「簡素な中にも温かみのある大会」（運営方針の1つ）・「選手村」での交流、市民参加（選手村ふれあいフェスタ）・「一館一国・地域応援事業」

4つの視点（キーワード）は、個別的に独立した課題ではなく、相互連関的な問題である。大会が開催された平成6年（1994）を中心とする時期は、世界情勢や国内情勢が複雑に絡み合っており、このような状況のなか「広島アジア大会」は開催されることになった。

### 1-3 アジア大会の招致と構想

アジア大会の広島誘致までの経緯を振り返る。昭和53年（1978）3月広島市議会における荒木武広島市長（当時）の「大規模な国際スポーツ大会の開催に向けて努力すべきである」という見解が契機である。この見解を受けて、第11回大会（1990年）招致にむけて動き出すことになった<sup>6</sup>。

昭和58年（1983）8月に、北京が第11回大会への立候補を表明し、広島と競合することになった。昭和59年（1984）6月、アジアオリンピック評議会（OCA）調査団の来広とヘリコプターを使用しての視察などの動きがあった。

<sup>6</sup> 荒木武広島市長が「大規模な国際大会」を打ち出した理由については今後も追跡調査が必要である。荒木市長が長期的総合的都市戦略の必要性を認識していたことが背景にある。昭和61年（1986）4月にモンリオールやシアトル等を視察した際に、トロント市の再開発を「一貫した政策理念のもとに着実に実行されているのが印象的でした」としている。この視察を広島のまちづくりの念頭においていたようである（荒木武『ヒロシマを世界へ』ぎょうせい、昭和61年、p3～5）。また、21世紀への広島活性化戦略として、「メッセ・コンベンション・シティづくり」を掲げている。国際見本市や会議、国際イベントの誘致が地域経済の活性化と産業構造の高度化につながると考えており、「海と島の国際博覧会」や「アジア競技大会」の誘致に至ったようである。（『ヒロシマを世界へ』、p25～28）。

特に、名古屋オリンピック（昭和63年（1988）大会）招致の頓挫が広島招致にとって大きな衝撃となり、北京との競合することを避け、第12回大会の誘致へと方向性が転換されていく。昭和59年（1984）8月、ロサンゼルス五輪の際、COC（中華人民共和国オリンピック委員会）・JOC（日本オリンピック委員会）・OCAの思惑が交錯するなか、北京・広島競合問題が話し合われた。同年9月、OCA総会において第11回大会（1990年）が北京、第12回大会（1994年）が広島と決まった<sup>7</sup>。

#### ■資料1 「第11回アジア競技大会招致に関する決議案」

昭和54年（1979）9月22日（行政資料0060-90-299）〈図録写真 p2〉

昭和54年広島県議会9月定例会議において、発議第5号として発議され、起立総員により決議された。決議案では、「この大会を、世界初の原爆被災地であり、現在、国際平和文化都市として飛躍をしつつある広島市を中心に、県下各地に招致することは、県民の連帯による新しいコミュニティ作りを目指す広島県にとつても、まことに意義深い」としている。

#### ■資料2 みんなで実現し成功させよう 第11回アジア競技大会広島

〔昭和59年（1984）2月〕（行政文書S01-2024-51）〈図録写真 p2〉

アジア競技大会広島招致委員会作成パンフレット。広島大会の開催計画などを紹介している。広島大会の開催意義については、(1) 国際親善への貢献、(2) スポーツの振興としている<sup>8</sup>。

#### ■資料3 第12回アジア競技大会広島開催決定

〔昭和59年（1984）9月〕（行政文書S01-2024-51）〈図録写真 p2〉

アジア競技大会広島招致委員会作成のパンフレット。昭和59年9月28日、ソウルで開催された、アジアオリンピック評議会（OCA）総会で、昭和69年（1994）<sup>9</sup>の第12回大会の広島開催が決定された。表紙にあるOCAのエンブレム「EVER ONWARD」は「限りない前進」という意味。

<sup>7</sup> 『第12回アジア競技大会公式報告書 運営記録編』財団法人広島アジア競技大会組織委員会、1996年、p6～14（以下『公式報告書』と略す）。

<sup>8</sup> 『公式報告書』にある開催意義は、(1) 国際親善への貢献、(2) スポーツの振興、(3) 都市基盤の整備である（p6）。

<sup>9</sup> 元号表記について補足する。開催決定時点では改元が想定されていなかった。平成への改元は昭和64年（1989）1月7日。そのため「昭和69年」と表記されている。

## 1-4 変容する広島県

アジア大会開催前の広島県は、空港や港湾などの大規模な開発や道路などのインフラ整備が進み、社会や景観が大きく変化した時期である。県内各地で大規模な開発が行われることになる。これらはアジア大会後や21世紀を見据えた中期展望（ビジョン）をふまえたものであった。

平成5年(1993)における広島県の施策は、環境問題に対して、県民・事業者・行政一体となった行動指針を提示する施策、高齢化社会に対応するプラン、バイオテクノロジー推進に関する構想、科学技術振興の構想など様々な施策が立案された<sup>10</sup>。

県内市町村においては、学園都市の整備計画（東広島市）や「みよし運動公園整備計画」（三次市）などの開発計画が進行した。

### ■資料4 「21ひろしまビジョン」の作成 平成5年(1993)3月

「21ひろしまビジョン」は、広島県におけるこれまでの社会基盤整備とアジア競技大会に結集された県民の力を発展・継承させる、アジア大会後の重点施策推進の中期展望である。

### ■資料5 離島計画と道路整備計画 平成5年(1993)4月

広島県新離島振興計画は、交通網の整備・産業の振興・生活基盤の整備・交流による活力のある島の創造の4項目を基本方針とする計画である。

広島県道路整備計画は、平成5年度～12年度にかけての広島県道路整備計画の全体構想を示している。

### ■資料6 広島ポートルネッサンス21 宇品(内港)地区

平成7年(1995)1月 (行政資料7030-96-730)〈図録写真 p3〉

広島県港湾振興課が作成。宇品(内港)地区の事業として、大型栈橋の建設や埋立工事を行うとしている。また、イメージや土地利用計画図を示し、完成後における土地開発や緑地整備・港湾施設の姿を紹介している。

### ■資料7 みよし運動公園(三次市)

平成8年(1996)撮影 (広島県広報写真S05-2008-0009)〈図録写真 p3〉

みよし運動公園陸上競技場は、日本陸上競技連盟第2種公認競技場であ

<sup>10</sup> 前掲、注2参照。

り、全天候型舗装トラックや天然芝のフィールドを有する。広島アジア大会では、サッカー（男子）の会場となった。

広島県においても「県立総合体育館」（平成6年2月開館）、「県立びんご運動公園」（平成5年10月開園）などの整備が行われた。また、「広島県総合グランド」改修など施設面の準備が進められた。これらの施設は、アジア大会における競技会場として使用された。

#### ■資料8 建設中の県立総合体育館

平成5年(1993)撮影（広島県広報写真S05-2008-0006）

昭和37年（1962）4月1日に広島県立体育館として開館。広島アジア大会を契機に建て替えられた。平成6年（1994）に広島県総合体育館（広島グリーンアリーナ）として開館した。大アリーナのほかに小アリーナ、武道場、弓道場、フィットネスプラザなどがある。広島アジア大会では、体操、バレーボール（男子）の競技会場となった。

#### ■資料9 ひろしま県民だより 第128号

平成6年(1994)1月1日（広島県公表資料04-2005-258）

広島アジア大会が取り上げられている。表紙には県立総合体育館の写真が大きく掲載されている。特集は、「数字で見る広島アジア競技大会」と題して、クイズ形式で広島アジア大会を理解できる誌面になっている。

## 2 西風新都と広島空港

### 2-1 西風新都（広島西部丘陵都市）

広島広域公園（広島市安佐南区）には、「広島広域公園陸上競技場」が建設された。広島アジア大会においては主会場として使用された。その周囲は、「西風新都」（広島西部丘陵都市）として大規模な開発がはじまった。

西風新都開発は、「なぜ、ここに計画されたのか」という問い合わせをいただいたことがある。県立文書館で保存している行政文書からはごく一部しかわからないが、当館所蔵資料からその一端をうかがい知ることができる。

## ■資料10 広島西部丘陵都市ニュース Vol.2

平成4年(1992)2月 (行政資料X01-746)〈図録写真 p4〉

広島西部丘陵都市開発推進協議会が発行。新交通システムなどの交通網整備とともに、広島アジア大会選手村を含む集合住宅が構想されていたことがわかる。他にも、ビジネス拠点、公共施設建設が構想されていた。

表1 「広島西部丘陵都市ニュース」に記載されている西部丘陵都市開発の経緯

昭和50年5月	関連公共施設が未整備のため沼田・石内地区の開発が凍結される。
昭和55年4月	広島市、政令指定都市へ昇格。
昭和59年9月	第12回アジア競技大会の広島開催決定(61年3月閣議了解)。
昭和60年8月	建設省昭和61年度重点施策の「地域における民活主要プロジェクト」に選定される(名称「広島西部丘陵都市」)。
昭和61年5月	産・官・学及び地域住民の代表で構成する「広島西部丘陵都市建設推進懇談会」にて、都市機能開発の方向についての提言まとめる。
平成元年1月	NTT無利子貸付制度を活用して公共施設を整備するための、第三セクター(広島西部丘陵都市整備株式会社)設立する。
平成元年11月	広島市と開発事業者(16社)の間で、「広島西部丘陵都市の建設に関する覚書」の締結。
	都市建設のマスタープランである「広島西部丘陵都市建設実施計画」の確立。
	「広島西部丘陵都市の根幹的基盤施設整備に係る開発者負担要綱」の制定。
平成2年3月	新交通システム西部丘陵都市への延伸計画決まる。
平成2年10月	広島広域公園北側のビジネスパーク・ハイライフトウン(広島アジア競技大会選手村)着工。
平成2年12月	都心との幹線道路となる広島沼田道路(仮称)のルート案発表
平成3年5月	「広島西部丘陵都市開発推進協議会」を発足し、官民一体となつての開発推進
平成3年10月	アカデミックリサーチパーク着工。

\*広島西部丘陵都市ニュース Vol.2 平成4年(1992)2月 (行政資料X01-746)

ここからは、西部丘陵都市開発は、広島市(計画主体)・民間開発事業者(開発主体)・地域住民(まちづくり主体)が協力している事業であることがわかる。開発には16社が関わっているが、そのうちの1社が手掛けたプロジェクトが「A・City」であり、広島アジア大会では、選手村となった。

また、当時の航空写真を読み解くと、広島市域には、都市課題が存在することが浮かびあがる。「西風新都」の開発は、課題解決のために、地形や交通アクセス等をふまえて選定されたことが推測できる。

### 2-2 広島空港の開港

広島空港(現・広島ヘリポート)は、市街地に近いことで、利便性を有していた。その一方で、空港域拡張の限界、滑走路周辺の騒音問題、「制限表

面」による制約など課題を有していた。特に、大型機の離発着や長距離国際線の運航に制約があり、移転する必要性が生じていた。

平成5年（1993）に「新広島空港」（現・三原市）が開港した。大型機の就航や長距離国際線の運航が可能となった。そのため、「広島アジア大会」では、指定空港となり、選手や役員などの日本入国の拠点となった。

空港の周囲には、「中央森林公園」が整備され、アジア大会では、公園内にあるサイクリングロードが自転車競技（個人ロード）の会場となった。

#### ■資料11 新広島空港臨空タウンPROJECT

〔平成4年（1992）〕（行政資料2040-2007-816）〈図録写真 p5〉

新広島空港から概ね半径5kmの圏域を「広島空港臨空タウン」と名付け、人・物・情報の交流を活性化させる空港支援都市として整備する計画である。

#### ■資料12 空港ビル内・PRコーナー設置計画

平成6年（1994）（行政文書S01-2024-55）

広島空港内には、大会に関連した装飾が施された。公式マスコット「ポッポ」と「クック」が、お客様をお迎えし、大会の機運を盛り上げた。

空港内には、大会100日前の平成6年（1994）6月から、「広島空港アジア競技大会情報PRコーナー」が設置された〈図録写真 p5〉。当館所蔵行政文書の中には、空港内における装飾や「情報PRコーナー」設置の立案・実施のための調整に関わる文書が残されている。広島空港ビルディング株式会社・組織委員会・協賛企業など各方面と調整が行われていたことがわかる。

### 3 広島アジア大会の歴史資料

#### 3-1 県立文書館が保存している行政文書

当館では、広島アジア大会関連の行政文書を69冊保存している（表2・令和7年12月末時点）〈図録写真 p6〉。アジア大会招致経緯や開催準備、報道資料などの文書が中心となっている。県が組織委員会と協力しながら準備を進めてきた過程がわかる。その一つの例として、会場装飾を取り上げる。

表2 県立文書館が保存している広島アジア大会関係の行政文書

資料番号	目録号	年	説明	課名
S01-2024-1	01-91-84	1988年	総合企画(国際化事業・国民体育大会・アジア競技大会)	医務課
S01-2024-2	01-93-64	1983年	重要施策(アジア競技大会)	企画調整課
S01-2024-3	01-93-65	1983年	重要施策(アジア競技大会)	企画調整課
S01-2024-4	01-93-66	1983年	重要施策(アジア競技大会)	企画調整課
S01-2024-5	01-93-1020	1990年	総合企画(アジア大会1994)	社会課
S01-2024-6	01-96-836	1993年	土木・建設/アジア大会	監理課
S01-2024-7	01-97-129	1994年	診療所開設届/広島アジア大会競技大会)選手村診療所	医療対策課
S01-2024-8	01-97-647	1993年	ワーキング会議/アジア競技大会宿泊対策	商業観光課
S01-2024-9	01-99-5	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア競技大会原簿昭和63・平成元・平成2・平成3年度	企画調整課
S01-2024-10	01-99-7	1994年	重要施策(アジア大会)/第11回大会公式報告書・北京アジア大会報告書	企画調整課
S01-2024-11	01-99-8	1994年	重要施策(アジア大会)/東京大会・ソウル大会報告書	企画調整課
S01-2024-12	01-99-9	1994年	重要施策(アジア大会)/各種大会資料・協賛資料	企画調整課
S01-2024-13	01-99-10	1994年	重要施策(アジア大会)/運営組織・要員計画	企画調整課
S01-2024-14	01-99-11	1994年	重要施策(アジア大会)/アジアオリンピック・負補交際関係昭和63～平成3・平成4	企画調整課
S01-2024-15	01-99-12	1994年	重要施策(アジア大会)/記者発表①	企画調整課
S01-2024-16	01-99-13	1994年	重要施策(アジア大会)/記者発表②	企画調整課
S01-2024-17	01-99-14	1994年	重要施策(アジア大会)/リハーサル大会①	企画調整課
S01-2024-18	01-99-15	1994年	重要施策(アジア大会)/リハーサル大会②	企画調整課
S01-2024-19	01-99-16	1994年	重要施策(アジア大会)/リハーサル大会③	企画調整課
S01-2024-20	01-99-17	1994年	重要施策(アジア大会)/芸術展示委員	企画調整課
S01-2024-21	01-99-139	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア大会招致経緯①	企画調整課
S01-2024-22	01-99-140	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア大会招致経緯②	企画調整課
S01-2024-23	01-99-141	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア大会招致経緯③	企画調整課
S01-2024-24	01-99-142	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア大会招致経緯④	企画調整課
S01-2024-25	01-99-143	1994年	重要施策(アジア大会)/新聞切抜(平成2年4月～平成3年3月)	企画調整課
S01-2024-26	01-99-144	1994年	重要施策(アジア大会)/新聞切抜(平成3年6月～平成4年7月)	企画調整課
S01-2024-27	01-99-145	1994年	重要施策(アジア大会)/新聞切抜(平成4年8月～平成5年7月)	企画調整課
S01-2024-28	01-99-146	1994年	広島アジア競技大会/新聞切抜(平成5年8月～平成6年3月)	企画調整課
S01-2024-29	01-99-147	1994年	重要施策(アジア大会)/新聞切抜(平成6年4月～平成6年8月)	企画調整課
S01-2024-30	01-99-148	1994年	重要施策(アジア大会)/新聞切抜(平成6年9月～平成6年10月)	企画調整課
S01-2024-31	01-99-149	1994年	重要施策(アジア大会)/新聞切抜(平成6年10月～平成7年3月)	企画調整課
S01-2024-32	01-99-150	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア競技大会開催準備一件①	企画調整課
S01-2024-33	01-99-151	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア競技大会開催準備一件②	企画調整課
S01-2024-34	01-99-152	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア競技大会開催準備一件③	企画調整課
S01-2024-35	01-99-153	1994年	重要施策(アジア大会)/OCA(関係)憲章組織委員会議	企画調整課
S01-2024-36	01-99-154	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア大会各種計画書	企画調整課
S01-2024-37	01-99-155	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア大会関係資料コピー原紙平成2年6月～	企画調整課
S01-2024-38	01-99-156	1994年	重要施策(アジア大会)/資料(開催決定前後)	企画調整課
S01-2024-39	01-99-157	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア大会推進協議会	企画調整課
S01-2024-40	01-99-158	1994年	重要施策(アジア大会)/各種大会報告書	企画調整課
S01-2024-41	01-99-159	1994年	重要施策(アジア大会)/各種大会視察	企画調整課
S01-2024-42	01-99-160	1994年	重要施策(アジア大会)/応接体制	企画調整課
S01-2024-43	01-99-161	1994年	重要施策(アジア大会)/OCA総会応接者リスト	企画調整課
S01-2024-44	01-99-162	1994年	重要施策(アジア大会)/平成6年度HAGOC予算等	企画調整課
S01-2024-45	01-99-163	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア大会対策特別委員会	企画調整課
S01-2024-46	01-99-164	1994年	重要施策(アジア大会)/資金計画(見直し計画)平成4年	企画調整課
S01-2024-47	01-99-165	1994年	重要施策(アジア大会)/第12回アジア大会運営費問題一件	企画調整課
S01-2024-48	01-99-166	1994年	重要施策(アジア大会)/平成3年度アジア大会関連事業調査回答	企画調整課
S01-2024-49	01-99-167	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア財政・アジア関連ソフト事業	企画調整課
S01-2024-50	01-99-168	1994年	重要施策(アジア大会)/平成5年度アジア競技大会関連ソフト事業	企画調整課
S01-2024-51	01-99-169	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア大会ポスター等	企画調整課
S01-2024-52	01-99-170	1994年	重要施策(アジア大会)/ヒロシマキャンペーン	企画調整課
S01-2024-53	01-99-171	1994年	重要施策(アジア大会)/施設使用(県関係)	企画調整課
S01-2024-54	01-99-172	1994年	重要施策(アジア大会)/広告看板ライフル射場	企画調整課
S01-2024-55	01-99-173	1994年	重要施策(アジア大会)/広島空港装飾	企画調整課
S01-2024-56	01-99-174	1994年	重要施策(アジア大会)/広島アジア競技大会競技施設図面/パンフレット	企画調整課
S01-2024-57	01-99-175	1994年	重要施策/予算(アジア大会対策案)	企画調整課
S01-2024-58	01-99-385	1994年	重要施策(アジア大会)/平成6年度議会関係アジア特別委員会	企画調整課
S01-2024-59	01-99-386	1994年	重要施策(アジア大会)/行政支援VIP接待	企画調整課
S01-2024-60	01-99-387	1994年	重要施策(アジア大会)/アジア大会支援する会(樹附)	企画調整課
S01-2024-61	01-2000-179	1995年	自然公園/アジア大会平成4年	森林保全課
S01-2024-62	01-2004-1077	1994年	重要施策(アジア大会)/要望書	企画調整課
S01-2024-63	01-2023-640		重要施策の総合企画調整/アジア競技大会関連公共事業関係資料	企画課
S01-2024-64	01-2023-642		重要施策の総合企画調整/アジア競技大会広島招致関係資料	企画課
S01-2024-65	01-2023-643		重要施策の総合企画調整/アジア競技大会広島招致関係資料/16	企画課
S01-2024-66	01-2023-644		重要施策の総合企画調整/アジア競技大会広島招致関係資料	企画課
S01-2024-67	01-2023-647		重要施策の総合企画調整/アジア競技大会広島招致関係	企画課
S01-2024-68	01-2023-648		重要施策の総合企画調整/アジア競技大会要望書申請書他	企画課
S01-2024-69	01-2023-651		アジア競技大会広島招致	企画課



【写真3】イメージカラー等  
基本デザイン計画の概要



【写真4】アジア競技大会  
行政支援職員研修会

■資料13 〔写真〕会場装飾報道発表資料

平成5年(1993)3月18日 (行政文書S01-2024-16)〈図録写真 p6〉

広島アジア競技大会組織委員会が発行した報道発表資料の一つ。広島アジア大会のイメージ統一を図るため、イメージカラー及び会場装飾のデザインが策定された。基本色（5色）、補助色（3色）、公式シンボルマーク（レッド）、公式ロゴタイプ（ブラック）である。それぞれの色に意味をもたせていたことが「イメージカラー等基本デザイン計画の概要」【写真3】からわかる。

■資料14 アジア競技大会行政支援職員研修会

平成6年(1994)5月19日 (広島県広報写真S05-2002-4713)

この写真は、県庁本館6階講堂で行われた「第1回チーフ・班長研修」の様子である。大会期間中にチーフ及び班長として勤務予定の職員で、本庁及び広島市内の地方機関に所属する者が対象であった。この日は、アジア競技大会の概要について研修が行われた【写真4】。

広島アジア大会に向けて県の事務組織として「アジア競技大会対策室」が設けられた。大会組織委員会との調整や県の事業調整など多くの業務にあたった。担当した職員は、国際的な大会を運営した経験がないため、手探りの中で進められた。このことは、広島アジア大会から「追加3競技」として、カバディ・セバタクロー・テコンドーが競技として追加されたが、国内であまり知られていなかったため、競技の概要が研修資料という形でまとめられていたことからわかる。

### 3-2 広島アジア大会関係の歴史資料

当館に保存されている広島アジア大会関係の行政文書は、アジア大会対策室や組織委員会に出向した職員が業務として文書を作成し、それが蓄積され、保存年限満了後に文書館に移管されて、保存されることにより歴史資料となったものである。ここからは、大会に関わるようになった職員にスポットをあててみたい。

今回の収蔵文書展にいたる取り組みの中で、当時、県教育委員会からアジア大会組織委員会（HAGOC）に出向していた植木唯男氏と出会うことができた。

植木氏の活動を知るきっかけとなったのが、『中国新聞』令和6年（2024）8月24日付の「広島ア大会 グッズ一堂に 安佐南の植木さん、収集の「家宝」展示」という記事である。展示会やご自宅を訪問し、ポスター・チラシやグッズ、手持ち資料やマニュアルなどを見せていただき、多くの資料と巡り合うことができた【写真5】。それと同時に当時のことを伺うことができた。

今回の展示は多様な歴史資料から「広島アジア大会」を再構成することを念頭においているため、植木氏が収集した資料と当館が所蔵する資料を一緒に展示することにした。

まずは、資料の形態を切り口に紹介する。特に、ビデオテープは、広島アジア大会の熱気や情景を視覚的に理解できる資料である。その一方で、再生機器の生産終了や著作権の処理など課題が伏在している。そのため、今回の展示では、モノ資料として、パッケージを展示するにとどめた。



【写真5】「植木唯男氏収集資料」（202509）のチラシ類やモノ資料

■資料15 ビデオテープ各種

（行政資料・行政文書・植木唯男氏収集資料）〈図録写真 p6〉

広島アジア大会の映像記録。放送会社作成の記録ビデオ・組織委員会作成の公式記録（日本語・英語）や広報用ビデオ、家庭で録画された大会中継のビデオテープなどがある。

■資料16 大会イメージソング・公式CD

（植木唯男氏収集資料）〈図録写真 p6〉

「TRY～君がいるから～」は、大会イメージソングの第1号。大会開幕1000日前の節目にあたる平成4年(1992)1月に発表された。公式CD「第12回アジア競技大会広島1994」には、開会式や表彰式で使用された楽曲が収録されている。

■資料17 広島アジア大会紙袋（植木唯男氏収集資料）〈図録写真 p6〉

大会公式マスコット「ポッポ&クック」は、平和を象徴する、「ハト」がモチーフとなっている。男女ペアのマスコットは、アジア競技大会初。ここでは、各競技をモチーフにした「スポーツポーズ」の袋と「広島県」と明記された袋を紹介する。

■資料18 広島アジア大会公式写真集・報告書・ガイドブック

（植木唯男氏収集資料）〈図録写真 p6〉

公式写真集と報告書は平成8年(1996)2月、広島アジア競技大会組織委員会が発行。公式報告書は運営記録編と大会記録編の2冊に分かれ、広島アジア大会の背景や開催準備と運営、総括、競技結果が記載されている。

公式ガイドブックは、平成6年(1994)7月、広島アジア競技大会組織委員会が発行。広島アジア大会の概要や競技日程、大会トピックスなどをまとめた内容になっている。

■資料19 行啓アルバム・行幸啓誌

平成6年(1994)（行政文書01-2024-825／図書B-05. 2-89-1）

天皇陛下により、大会の開会が宣言された。天皇皇后両陛下は、開会式ご臨席後、関西空港を經由して、訪欧にご出発された。皇太子殿下は、大会名誉総裁を務められ、ウェルカムレセプションや閉会式でお言葉を述べられた。天皇皇后両陛下と皇太子殿下同妃殿下が地方で行われる公式行事にご出席されるのは、昭和45年(1970)大阪万国博覧会以来24年ぶりのことである。

## ■資料20 公式ポスター

平成2～5年(1990～93) (植木唯男氏収集資料)

公式ポスターは、第1号(平成2年)から第4号(平成5年)までの4種類が作成された。

ここでは、公式ポスターのうち、第1号(平成2年)・第2号(平成3年)・第4号(平成5年)を植木唯男氏収集資料より展示した【写真6】。第3号(平成4年)については、当館で保存する行政文書のなかにあるポスターから展示しようとした。大型の資料で、かつ、折り畳まれた状態で保存されていた。そのため、展示をとりやめ、参考資料として解説文に写真を掲載した。



【写真6】公式ポスターの展示風景  
(左から第1号・第2号・第4号)

## 4 広島アジア大会

### 4-1 競技開催地

ここからは、広島アジア大会の競技が行われた市町村に視点を移して紹介する。広島アジア大会は、広島市を中心とする県内各地で開催された。競技開催地とはならなくても、練習会場として大会に関係する自治体は多くあった。そのため、実質的には県全域が広島アジア大会に関係することになった。

## ■資料21 [ポスター] 私たちが大会を支えます！

(行政文書S01-2024-51)〈図録写真 p8〉

広島アジア大会開催地をアピールしていることがよくわかる。首都圏PRイベント「アジア競技大会・ひろしまキャンペーン」の一つとして、ポスターが駅や電車内などに掲示された。このキャンペーンは、会場となっている市町を同時にアピールする取り組みである。

## ■資料22 八千代町作成パンフレット「HAJI-DAM」

〔平成5年(1993)〕 (行政資料8060-2005-670)〈図録写真 p8〉

八千代町作成のパンフレット。広島アジア大会カヌー競技の開催にあたって、大会の歴史、カヌー競技、実施プログラム、OCA加盟国・地域などの情報が記載されている。裏表紙には、「SPORTS RAND土師ダムMAP」がある。イラストを用いて土師ダム周辺の施設を紹介している。

■資料23 カヌー競技会場（八千代湖）

平成6年（1994）2月（行政文書S01-2024-54）〈図録写真 p8〉

カヌー競技は、八千代町土師ダム（八千代湖）に特設会場を設け開催。広島アジア大会を前に異常渇水となったため、競技開催が危ぶまれたが、大会直前の台風のため、水位が回復し、競技が実施できた。平成5年10月第5回アジアカヌー選手権大会がリハーサル大会。

写真の看板には、「To all of Asians who open your heart to us in Yachiyo-cho we would like say “Thank you” from the bottom of our hearts, Ychiyo-cho Welcomes this international exchange of people」「この地に心を合わせたアジアの人々へ「ありがとう」のこたばを贈りたい。広げよう国際交流」と書かれている。

■資料24 野球・バレーボール（呉市）

〔平成5～6年（1993～94）〕（行政資料X02-184）〈図録写真 p8〉

第51回国民体育大会・第12回広島アジア競技大会呉市実行委員会発行のパンフレット。表紙には、「迎えようあたたかい心で 呉市」と記されている。呉市営二河（にこう）野球場において野球、呉市体育館において、バレーボール（女子）が行われた。

■資料25 バスケットボール（大竹市）

平成3年（1991）6月（植木唯男氏収集資料）〈図録写真 p8〉

大竹市編集発行のパンフレット。広島大会の意義や実施プログラムなどである。『広報おおたけ』（令和7年1月号）に「大竹がバスケットで沸いた広島アジア競技大会」という記事がある<sup>11</sup>。それによると、昭和69年（1994）が市制施行40周年にあたることから、競技の誘致をめざしたようである。

■資料26 サッカー（尾道市）（行政文書S01-2024-54）〈図録写真 p8〉

サッカー（男子）は、広島広域公園陸上競技場・広島広域公園第一球場

<sup>11</sup> 『広報おおたけ』（令和7年1月号）

URL : [https://www.city.otake.hiroshima.jp/soshiki/somu/kikakuzaisei/gyomu/3/2/r5koho\\_1/6585.html](https://www.city.otake.hiroshima.jp/soshiki/somu/kikakuzaisei/gyomu/3/2/r5koho_1/6585.html)

(広島市安佐南区)・広島県総合グラウンドメインスタジアム(広島市西区)・びんご運動公園陸上競技場(尾道市)・みよし運動公園陸上競技場(三次市)で行われた。写真は、尾道会場に設けられた会場案内板の一つ。

■資料27 フェンシング(三原市) (植木唯男氏収集資料)〈図録写真 p8〉

「フェンシング三原会場」を示すステッカー。三原市リージョンプラザを会場にして、フェンシング競技・近代5種(フェンシング)が行われた。

■資料28 漕艇(福山市) (植木唯男氏収集資料)〈図録写真 p8〉

芦田川・河口湖 芦田川漕艇場で行われた漕艇競技を示すステッカー。この漕艇場は、コース延長が2,000mあり「国際公認A級コース」である。

■資料29 ゴルフ・レスリング(東広島市)

(植木唯男氏収集資料)〈図録写真 p8〉

東広島市ではゴルフとレスリングが行われた。第12回広島アジア競技大会東広島市準備委員会作成の冊子には、アジアの国々の文化やしきたり、競技の見方が紹介されている。『広報東広島No214』には、平成4年(1992)1月7日に設置した残日計付広告塔除幕式や語学ボランティアの募集が記事となっている。

#### 4-2 選手村

選手村は、主会場となる広島広域公園陸上競技場の隣接地に設けられ、福山市には、選手村分村が設置された。大会期間中における選手の宿泊施設であるとともに、国際的な文化交流の場となった。

国際センターでは、書道やお茶など日本文化を体験できる交流事業が行われた。また、アジア大会初の試みとして、「交流広場」が設けられ、「選手村ふれあいフェスタ」が開催された。選手や役員・市民が楽しみながら交流する場となった。また、選手村などで配布された大会新聞を通じて情報交換が行われたので一部を紹介する。

■資料30 選手村施設配置計画

平成6年(1994)1月(広島県公表資料04-2005-257/81)〈図録写真 p9〉

平成6年1月20日付「「選手村食堂メニューによる昼食会の開催」と「選手村食堂の概要」について」(財広島アジア競技大会組織委員会)その中に、選手村の施設配置の計画図が含まれている。

■資料31 選手村とバスターミナル

平成6年(1994)10月(広島県広報写真S05-2002-0300)〈図録写真 p9〉

広島アジア大会での輸送は、バスが基本であったが、タクシーや専用車なども用いて行われた。競技や練習への輸送、審判の輸送、メディア輸送、開会式・閉会式への輸送、観客輸送など様々な形で行われた。大会新聞『HIROSHIMA ASIAD NEWS』1994年10月2日付では、「Don't miss the bus!」という記事で乗車するバスを間違いないよう注意を促している。

■資料32 選手村の概要(植木唯男氏収集資料)〈図録写真 p9〉

選手村運営スタッフ用のマニュアル。選手村運営の基本方針・施設配置・運営体制などが記載されている。選手村運営の基本方針は、①『住み』『憩う』機能の充足 ②ホスピタリティの充実 ③交流の促進 ④節度ある村の管理であった。

■資料33 選手村福山分村概要 第2分村(福山ニューキャッスルホテル)  
(植木唯男氏収集資料)〈図録写真 p9〉

福山第2分村運営スタッフ用のマニュアル。漕艇競技は広島市から遠方となるため、会場近くの福山市に分村が設けられた。漕艇競技の選手は第2分村を使用した。なお、福山第1分村は、サッカー(女子)の選手が使用した。

■資料34 第12回アジア競技大会広島1994福山第2分村ハンドブック  
(植木唯男氏収集資料)〈図録写真 p9〉

福山第2分村選手用のハンドブック(日本語・英語)。分村の生活に必要な規則や、サービスなどの情報を記している。表紙の写真は明王院の弁天池から五重塔を撮影したもの。

■資料35 大会新聞「HIROSHIMA ASIAD NEWS」

平成6年(1994)(植木唯男氏収集資料)〈図録写真 p9〉

広島アジア大会組織委員会(HAGOC)発行の英字新聞。9月25日から10月17日まで、全19回発行された。大会前は、大会関係施設の概要、選手の近況報告、大会関連ニュースが掲載された。大会期間中は、各競技の試合結果、競技プログラム、選手村情報などが掲載された。

■資料36 [チラシ] みんなで選手村に遊びにきてね!

(行政文書S01-2024-51)〈図録写真 p9〉

広島アジア大会組織委員会発行。「選手村ふれあいフェスタ」のチラシ。平成6年(1994)9月25日から10月15日のうち8日間にわたりイベントが開催された。参加者総数は、249,060人(一般来場者・選手役員・出演者の合計)であった。

### ■資料37 選手村ふれあいフェスタ プログラム

(行政資料8060-2004-2370)

選手村ふれあいフェスタは、平成6年(1994)9月25日の「ようこそ“選手村まつり”」からはじまり、10月15日の「後夜祭フェアウェルイベント～アジアへ広がるたしかな交流～」まで多彩なイベントが開催された【写真7】。



【写真7】選手村交流ひろば [左]・選手村ふれあいフェスタ [右]  
(広島県広報写真 S05-2005-0300)

#### 4-3 開会式・閉会式

広島アジア大会は42の国と地域の選手参加し、参加選手数は6,828人であった(アジア大会最多・当時)。特に、カンボジアやCIS(中央アジア5カ国)の参加は、広島アジア大会のもつ「平和の祭典」という色彩を更に色濃くすることになった。

### ■資料38 開会式プログラム

平成6年(1994)10月2日 (植木唯男氏収集資料)〈図録写真 p10〉

開会式・閉会式では、式典とともに、アジアや瀬戸内を表現した演出が行われ、広島県内の学生が出演した。また、式の運営には、多くのボランティアが参加し、「手作り」の開会式・閉会式となった。10月16日の閉会式では、次回開催地バンコクへの引き継ぎが行われた。

#### 4-4 ライフル射撃

今回の展示では、広島アジア大会における競技として、「ライフル射撃」を取り上げた。ライフル射撃競技に焦点をあてたのは、行政文書にライフル射撃に関する文書が保存されていたこと、植木唯男氏収集資料に関連する資

料が見られたことが理由である。

■資料39 つつがライフル射撃場（工事中・全景）

（行政文書S01-2024-54）〈図録写真 p10〉

広島アジア大会を開催にするにあたってライフル射撃の会場選定は、様々な調整の中で行われた。その結果、筒賀村に「つつがライフル射撃場」が建設され、競技が実施された。令和7年（2025）6月1日に開催された広島県高校総体の会場となるなど、現在においても役立てられている。

■資料40 ライフル競技マニュアル類

（植木唯男氏収集資料）〈図録写真 p10〉

リハーサル大会のプログラムや広島アジア大会の運営マニュアルなど一式。平成2年（1990）第11回北京大会の視察、平成4年（1992）バルセロナオリンピック視察、平成5年（1993）ワールドカップ（ソウル）への役員派遣を通じて運営体制を確立した。また、リハーサル大会を通じて競技方法や国際大会の運営を学んだ。

4-5 競技の記録

広島アジア大会では、34競技337種目の競技が行われた。展示では、マラソン競技について、交通規制のチラシを展示することでコースを紹介した。また、各競技で熱戦が行われたが、結果を展示するとすると、データが記載された公式記録に限られるので、『OFFICIAL RESULTS』を展示した。

■資料41 [チラシ] 広島アジア競技大会にご協力を

（行政文書S01-2024-51）〈図録写真 p11〉

10月9日にマラソン競技が開催された。広島広域公園陸上競技場をスタートし、平和記念公園にゴールするルートであった。広島の新しい「スポーツの殿堂」から「平和のメッカ」に至るという意味があった。

スタート後の最初10kmで約150mの標高を下り、廿日市市地御前付近で折り返して、広島市内に向かう、42.195kmになった。

■資料42 OFFICIAL RESULTS（行政資料W-26322）

広島アジア大会のすべての競技結果はこの1冊に集約されている。展示では、陸上競技、野球、サッカーの結果を紹介した。

特に、陸上競技の男子100m決勝は、カタールのアル・ラヒム・タラル・マンスール選手が10秒18で優勝した。度重なるフライングで緊張感あふれる決勝であったが、「失格（DQ）」が記録されているだけである。

#### 4-6 芸術展示

芸術展示は、アジアオリンピック評議会（OCA）憲章において、陸上競技・水泳競技とともに必須プログラムに規定されている。「アジア競技大会広島アートフェスティバル」では、合計183の公式プログラムが実施された<sup>12</sup>。平成6年8月1日には、「開幕式典／オープニングコンサート アジア音楽の夕べ～伝統と現代の出会い～」が開催された<sup>13</sup>。

#### ■資料43 アートフェスティバル ガイドブック・パンフレット

〔平成6年（1994）8月〕（植木唯男氏収集資料）〈図録写真 p11〉

芸術展示「アジア競技大会広島アートフェスティバル」は、平成6年8月1日～10月30日に開催された。テーマは、「相互理解～heart to heart～」。ガイドブックとパンフレットは日本語・英語併記。

アートフェスティバルの一環として、広島県立博物館では、「開館5周年 秋の特別展 日本のなかのアジア文化」が開催された<sup>14</sup>。また、広島県立歴史民俗資料館では、「アジア競技大会開催・開館15周年記念特別展示 古墳と大陸文化」が開催された<sup>15</sup>。

#### 4-7 市民参加

広島アジア大会では、語学ボランティアや清掃ボランティアをはじめ、多くの形で市民が参加する機会があった。「声のかけ橋キャンペーン」ではテレホンカードを収集し、選手や役員に贈り、自国に電話する際に役立ててもらおう取り組みである。「一館一国・地域応援事業」のように、後の国際的な

<sup>12</sup> 『公式報告書』、p275～283。

<sup>13</sup> 〔パンフレット〕アートフェスティバル オープニングコンサート（平成6年8月1日）（行政資料8060-2004-2367）。

<sup>14</sup> 広島県立歴史博物館『開館5周年記念・秋の特別企画展 日本のなかのアジア文化－漢字・南画・仏像－』平成6年、p3。

<sup>15</sup> 広島県立歴史民俗資料館『アジア競技大会開催・開館15周年記念特別展示 古墳と大陸文化』、平成6年9月。

スポーツ大会に受け継がれた事業も存在する<sup>16</sup>。

■資料44 「ポッポ&クック募金」募金箱

（植木唯男氏収集資料）〈図録写真 p11〉

広島アジア大会のPR活動や参加選手と市民を結ぶ交流事業などの資金を確保するため、開催3年前から行われた。「ポッポ&クック1,000円募金」を含め、最終的には、1億4000万円余りを集めた<sup>17</sup>。

■資料45 ポッポとクックの街いっぱいキャンペーン

平成6年（1994）2月（行政文書S01-2024-16）〈図録写真 p11〉

ポッポとクックのポスターやステッカーで街中をいっぱいにする事で、無関心だった人々に大会を感じさせることを目的にしている。ディスプレイスタンドやPR用紙袋の配布なども行われた。

■資料46 広島市「一館一国・地域応援事業」報告書

平成8年（1996）3月（植木唯男氏収集資料）〈図録写真 p11〉

広島市作成。広島市内の公民館やコミュニティセンターが、広島アジア大会に参加する国や地域の理解を深めるために取り組んだ事業。参加する各国・地域の地域理解、言語や料理などへの理解を深めた。空港などでの出迎えや大会期間中に選手が公民館を訪問するなど様々な取り組みが行われた。

## 5 広島アジア大会・後史

### 5-1 広島アジア大会の「遺産（レガシー）」

広島アジア大会の「遺産（レガシー）」について言及したい。有形の遺産（レガシー）としては、21世紀を見据えたビジョン構築やインフラ整備があげられる（1章から2章）。広島アジア大会関連施設（競技会場・西風新都・広島空港）は現在でも活用されている。競技施設は、「第51回国民体育大会」（広島国体）平成8年（1996）でも使用された。

主会場となった広域公園陸上競技場は、サンフレッチェ広島の拠点となり、令和6年（2024）に「広島サッカースタジアム」（ピースウイング広島）

<sup>16</sup> 『公式報告書』、p57～59。

<sup>17</sup> 『公式報告書』、p59。

に移転するまでは、プロスポーツ拠点となった。

無形の遺産（レガシー）としては、広島アジア大会の運営経験があげられる。このことは、平成21～22年（2009～2010）に浮上してきた広島・長崎オリンピック構想への自信につながっている。

4章で取り上げた、一館一国・地域応援事業は、30年の時間が経過しつつも、地域に応じて継承されている。安佐北区のカタール会<sup>18</sup>、安佐南区佐東公民館<sup>19</sup>における事業があげられる。一館一国・地域応援事業は、平成10年（1998）の長野オリンピックにおける一校一国運動に継承されている<sup>20</sup>。また、東京オリンピック（TOKYO2020）で実施された「世界のおともだちプロジェクト」にも理念は受け継がれている。

## 5-2 街中にある広島アジア大会の記憶

令和7年現在において、街中で見ることができる広島アジア大会の記憶を3か所紹介する。

**【写真8】** 広島市中区の中央通りには、道路の両側にポッポ&クックのモニュメントが設置されている。時計が一緒に設置されており、街中を行き交う人に時を知らせている（令和7年（2025）1月撮影）。

**【写真9】** 広島市西区にある、広島県総合グラウンドでは、広島アジア大会時、メインスタジアムにおいてサッカー（男子）、野球場において野球が開催された。敷地の片隅に扇形の「広島アジア大会記念碑」が設置されている。同様な記念碑は、広島アジア大会の会場となった施設に設置されていたようである（令和6年（2024）9月撮影）<sup>21</sup>。

<sup>18</sup> 「安佐町住民グループの五輪応援受け カタール選手が感謝の動画」『中国新聞ひろしまメディアセンター』、令和3年12月27日

<sup>19</sup> 安佐南区の佐東公民館では、「国際理解講座～アジア競技大会広島1994から30年～」が開催された（令和6年10月5日）。また、同公民館のロビーでは、「アジア競技大会広島1994」から30年 台湾との交流を振り返って」（2024年10月3日～21日）が開催された。

<sup>20</sup> 「[生きて] アジア大会 市民の交流活動芽吹く」『中国新聞』、平成21年10月21日。

<sup>21</sup> カバディ・ソフトボールの会場となった広島修道大学にも記念碑が設置されている。このことについて、大学広報誌で紹介している。「修道百景 アジア大会記念碑」（広島修道大学広報誌『Truth』No.222）、令和5年（2023）10月20日（URL：<https://www.shudo-u.ac.jp/information/htpcot00000001r8-att/1807940000000qym.pdf>）。この他、記念碑は屋外に設置されているため、目視で確認できる場合や個人のブログ等により所在が判る場合がある。



【写真8】  
ポッポ&クック



【写真9】  
広島アジア大会記念碑



【写真10】  
西風新都マンホール A・City付近

【写真10】 西風新都のA・City付近では、マンホールがポッポ&クックのデザインになっており、当時のままである（令和6年（2024）9月撮影）。

その一方で、大会から30年を経過し、ポッポ&クックのモニユメントの撤去も進んでいる。たとえば、広島市南区段原地区にある幼稚園では、老朽化のため撤去された<sup>22</sup>。また、東広島市運動公園にあるモニユメントは、令和5年（2023）に老朽化にともない、安全を考慮して撤去されている<sup>23</sup>。

最近の報道で、「70年大阪万博太陽の塔重文指定へ」（『日経新聞』令和7年5月16日）とあった。大阪万博の場合、会場跡地が万博記念公園として整備され、太陽の塔も適切な形で保存されている状況にある。

一方で、広島アジア大会の場合、街中にモニユメントや記念碑が残されているが、風雨による劣化により徐々に形が失われている。また、時間の経過とともに人々の記憶からも消えていくことになるだろう。そのことを考えると、記憶の継承には、文書館に保存される「歴史資料」が重要となってくる。

おわりに

最後に、今回の展示やこれまでの取り組みの総括を行うことにしたい。

<sup>22</sup> 「シラベルケーネ！ アジア大会30年 あのマスコットは いま」（NHK広島放送局 お好みワイドひろしま）、令和6年11月11日

<https://www.nhk.jp/p/okonomi-hiroshima/ts/N582XX6G98/blog/bl/pG6rxqgeJG/bp/p9RG38R67p/>

<sup>23</sup> 「広島アジア大会広告塔、腐食で倒壊恐れ 東広島市が撤去へ」『中国新聞』、平成15年10月11日

まず、成果点としては、以下の3点があげられる。

#### 成果① 広島アジア大会の歴史資料の掘り起こし・継承・展示

当館の所蔵する広島アジア大会に関連する行政文書・行政資料・広報写真を網羅的に調査した。また、植木唯男氏収集資料を調査し、当館に寄贈いただいたことである。歴史資料を継承することは、文書館の果たすべき社会的な役割の一つであり、その責を果たすことができた。

#### 成果② 広島アジア大会を「広島県の歴史」の1ページとして捉える試み

当時の広島県がおかれた社会状況と広島アジア大会を関連付けて描くことができた点である。展示タイトルからすると、大会競技や選手に着目した企画という印象を与えたかもしれない。その視点とは異なり、「広島県の歴史」として「広島アジア大会」を描いたことは、一定の成果と思われる。

#### 成果③ 30年前（平成5～6年（1993～94））を中心とする時代へ着目

国内では平成バブルの終焉から低成長へと転換を始めた時期である。カンボジア内戦の終結にみられるように、国際的にみても転換点を迎えた時期である。広島県においても社会が大きな転換点を迎えていた。そのような時代を歴史として着目し、展示として表現する一つの試みができた<sup>24</sup>。

今後の課題としては、以下の3点があげられる。

#### 課題① 膨大な量の資料整理・公開にむけた取り組み

これまでの取り組みを通じて、広島アジア大会に関連する行政文書や植木唯男氏収集資料など膨大な量の資料の存在が確認できた<sup>25</sup>。文書館の果たすべき役割は、保存するだけでなく、多くの方に公開し、役立ててもらうこともある。整理作業を進め、多くの方が閲覧できるようにしたい。

#### 課題② 重なり合う国際史と日本史の描出

そもそも、「アジア大会」と日本の関係性は、アジア・太平洋戦争の経

<sup>24</sup> この時期は、総合保養地域整備法（リゾート法）による開発の課題点が表面化する時期である。広島県は「瀬戸内中央リゾート構想」（平成元年6月23日同意）が構想されたが、展示および本稿において、この点には全く触れられていなかった。今後の課題としたい。

<sup>25</sup> 令和7年に当館が寄贈寄託を受けた資料の一つに小田和美氏収集資料（202504）がある。これも広島アジア大会に関連するものである。また、安芸高田市歴史民俗博物館『ダムに沈んだ土師～失われた風景の歴史をたどる』（安芸高田市歴史民俗博物館図録19、令和6年12月）の展示出品（p46）には、「広島アジア大会カヌー競技Tシャツ」が見られる。

緯もあり、第1回大会から強い緊張がともなっていた。この間における日本選手団のフェアプレーにより、「スポーツを通じた和解」への道を拓いてきた歴史がある。その一つの到達点として「広島開催」には意味があった。

広島アジア大会は、戦後50年という一つの節目を迎える時期に開催された。平和記念式典における平岡市長の「平和宣言」では、広島アジア大会を念頭におき、アジアとの関係性に言及する内容へと変化している<sup>26</sup>。また、平成6年平和記念式典における広島県知事の挨拶においても広島アジア大会への言及がみられる<sup>27</sup>。つまり、国際史と日本史が交差する状況にあったといえるだろう。

広島アジア大会の競技会場の1つである、広島県総合体育館の敷地は、戦前期における「西練兵場」であり、軍事施設の1つであった。戦争直後は、バラック街となり、その後、中央公園として整備された地域である。また、大会と同時期に開港した広島空港は、戦後開拓地の一つであった。

つまり、広島アジア大会の背後に複雑に重なり合う戦争、が存在することになった。その点を、「貫戦史」(Trans-war history)の視点で捉えようと、より深く描くことができるのではないか。

### 課題③ メガイベント史のなかの「広島アジア大会」の位置づけ

令和3年(2021)にオリンピック・パラリンピック競技大会東京大会(TOKYO2020大会)が開催された。誘致経緯やコロナ禍でのオリンピック開催ということで社会の分断が表出した。仮に、TOKYO2020大会を一つの帰結点とし、広島アジア大会以降のメガイベントにおける変遷を検討してみると、より明確に広島アジア大会の歴史的位置づけができると思う。

今回の収蔵文書展での展示やこれまで取り組みについては、以上のような成果点と課題点を有している。今後、継続的な活動を通じて、課題に応えたいと考えている。また、これまで、調査・収集した資料、展示などの取り組みが、広島アジア大会を将来へ継承する一助になることを期待したい。

<sup>26</sup> このことについては、早稲田大学出版部編『「平和宣言」全文を読むーヒロシマの祈り』令和4年、p140～142に詳しく書かれている。

<sup>27</sup> 『中国新聞』平成6年8月7日。

## 《主要参考文献》

### 【広島県立文書館】

- ・令和5年度収蔵文書の紹介展「30年前の広島県－アジア大会前史－」、令和5年
- ・「30年前の広島県－アジア大会前史－」（『広島県立文書館だより』47）、令和5年
- ・収蔵文書展『広報資料からみた広島県政の歩み－1970～2000－』、平成24年

### 【広島アジア大会】

- ・(財)広島アジア競技大会組織委員会『第12回アジア競技大会公式報告書』、平成8年
- ・(財)広島アジア競技大会組織委員会『第12回アジア競技大会広島1994 公式ガイドブック』、平成6年
- ・児玉克哉『アジア競技大会－広島開催への道－』中国新聞社、平成6年
- ・「[ジュニアライターがゆく] 広島アジア大会30年 当時の市長平岡敬さんに聞く」『中国新聞』ヒロシマ平和メディアセンター、令和6年2月26日
- ・「[ジュニアライターがゆく] 広島アジア大会30年 安佐公民館×カタール」『中国新聞』ヒロシマ平和メディアセンター、令和6年2月26日
- ・「[ジュニアライターがゆく] 広島アジア大会30年 五日市公民館×ネパール」『中国新聞』ヒロシマ平和メディアセンター、令和6年2月26日
- ・「広島アジア大会 興奮の記憶 20年記念 安佐南区でグッズ展」『中国新聞』、平成26年1月23日

### 【一館一国・地域応援運動】

- ・和田崇「1994年広島アジア競技大会の無形遺産——一館一国運動の25年——」（『E-journal GEO』Vol.15(2)）、令和2年
- ・植木久美・十代田朗・津々見崇「国際イベントを機として市民の国際交流活動に関する実証的研究—広島アジア大会を事例として—」（『都市計画論文集』40-3）、平成17年
- ・「カタールの子どもが描いた絵画展示、広島市安佐北区 広島アジア大会を機に草の根交流する「カタール会」」『中国新聞』、令和5年11月15日
- ・「カタールと広島 育んだ緑」『読売新聞』、令和4年11月30日
- ・「安佐町住民グループの五輪応援受けカタール選手が感謝の動画」『中国新聞』、令和3年12月27日
- ・「今も息づく一館一国運動 広島アジア大会時 公民館が参加国・地域応援 被災地支援／若者招き交流」『中国新聞』ヒロシマ平和メディアセンター、平成27年12月28日

・「アジア大会 市民交流活動芽吹く」『中国新聞』、平成21年10月21日

【全般】

- ・石川遙「〈資料紹介〉企画展「オリンピックと広島スポーツ振興」を振り返って」（『広島市公文書館紀要』第34号）、令和6年
- ・高嶋航『スポーツからみる東アジア史－分断と連帯の二〇世紀』岩波新書、令和3年
- ・吉見俊哉『五輪と戦後 上演としての東京オリンピック』河出書房新社、令和2年
- ・西井麻里奈『広島復興の戦後史：廃墟からの「声」と都市』人文書院、令和2年
- ・今村洋一「旧軍用地に係る土地政策と転用実態—終戦直後から戦災復興期の都市部における旧軍用地転用—」（『土地総合研究』2015年夏号）、平成27年
- ・中村政則・森武磨編『年表 昭和・平成史』岩波書店、平成24年
- ・今村洋一「戦災復興計画における旧軍用地の転用方針と公園・緑地整備について」（『日本都市計画学会 都市計画論文集』44-3）、平成21年
- ・今村洋一・西村幸夫「旧軍用地の転用と戦後都市施設整備との関係について—1956～1965年度の国有財産地方審議会における決定事項の考察を通して—」（『日本都市計画学会 都市計画論文集』42-3）、平成19年
- ・中村政則『戦後史』岩波新書、平成17年
- ・「特集 スポーツ県・広島」（『ひろしま県グラフ誌 すこぶる広島』vol.8）、平成8年
- ・広島県『戦後五十年広島県政のあゆみ』、平成8年
- ・『朝日年鑑1994』朝日新聞社、平成5年

※インターネットホームページの情報は、令和8年1月5日最終確認。

（にいほら あつひろ 主任研究員）

